

2020年12月12日

あなたのその風邪薬に根拠はありますか? ~with コロナ時代の風診療~

演者 医療法人社団 希慳会 ながたクリニック 院長
感染症倶楽部シリーズ 統括代表 永田 理希 先生

講演内容

1 外来市中感染症(中耳炎、鼻副鼻腔炎、咽頭炎・扁桃炎、返答周囲膿瘍・咽後膿瘍、細菌性肺炎)に対する推奨抗生剤等の説明

急遽流行中の COVID-19 とインフルエンザに関して講演を追加したため、今回は簡単に説明のみ。

2 インフルエンザの診察方法と治療法

インフルエンザ流行、非流行期による診断確率の変化と暴露歴を含む病歴、インフルエンザ濾胞等理学所見からの診察法、インフルエンザ迅速検査の適応と臨床症状との乖離の考え方の説明。また抗インフルエンザ薬の効果と薬剤別差異、選択について解説。

3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)初期診療の手引き

COVID-19 の潜伏期から発症後の現時点にて分かりうる自然経過、転機、予後について説明。嗅覚障害や味覚障害を認めた場合、他のウイルス疾患、上気道感染に比べて鼻閉の合併の有無が COVID-19 の診断確率に影響を及ぼす、消化器症状の合併症は起こりうる場合発熱ののちであることが多い、発熱が遷延しやすくその場合より COVID-19 を疑うなど。また感染疑い時点からの患者さん問い合わせの対応、受診後の療養方法の指導方法と説明の重要性、一般診療所での説明の効率化のためのパンフレット等の重要性と具体的なパンフレット例示。さらに現時点での感染者や濃厚接触者の隔離方法と期間、その根拠を解説。現在急速に拡大している検査キット販売を含めた商用 PCR 自費検査についての問題点についてコメント。

座長コメント

元来外来で頻発する感染症中心に鑑別、診断方法、抗生剤の是非と適正使用を中心にご講演いただく予定でしたが、世界的流行の COVID-19 および鑑別として難しいインフルエンザに関して、診療所等での一般診療に明日からも利用可能な知識、心構え、ツールの紹介と解説を頂きました。病歴の問診と周囲の流行での診察前確率の予測、理学所見での診断確率を上げていく具体的なアプローチ法など大変興味深い内容でした。予定時間いっぱい講演で、質疑応答の時間も取れないため、質疑応答はアンケートのみとなりましたが、聞きやすい話法と興味深い内容にて時間がたつのも忘れるような講演でした。今回は開演直後にさっと概要のみとなりましたが、COVID-19 やインフルエンザ以外の外来で診療機会の多い感染症疾患と、その疾患に対する抗生剤を含めた対処法についても、機会を改めてお伺いしたいと感じました。

(文京内科クリニック 清水 信繁)